

平成30年度 第4回市長タウンミーティング概要

とき：平成30年4月21日（土）

午前10時30分～11時30分

ところ：北町公民館

参加者：113人

○市長あいさつ

（市長より、平成30年度の施策・予算についての説明が行われました。）

○意見交換

質問（男性）

今の社会は、2人に1人ががんにかかり、3人に1人は、がんで亡くなると言われていますが、早期に発見し治療すれば治る病気ですので、市民の健康意識の向上とがん検診の受診率の向上に努めてください。

回答（市長）

蕨市では、5か年ごとに策定するわらび健康アップ計画において、がん検診の受診率の目標値を設定し、その向上に取り組んでいます。その中で、検診の充実を図っており、60歳以上の方を対象とした胃がん検診については、平成28年度より、従前の胃部エックス線検査に胃内視鏡検査を加え、どちらかを選択できるようにしました。選択制導入後、胃内視鏡検査の希望者が大変多かったことから、蕨戸田市医師会との協議の中で、昨年度は、定員を300人から500人に拡充し、今年度は、更に600人に拡充しています。乳がん検診についても、ここ2年間で検診の期間を拡充しました。また、検診のご案内のちらしの色を目立たせるなどの工夫を凝らすなど、より多くの市民の皆さんにがん検診を受けていただくための取り組みを進めています。

質問（男性）

自分の住むマンションには、約2割の外国人が暮らしており、市役所の窓口や蕨駅周辺でも多くの外国人を目にします。そこで、蕨が更に魅力的なまちとなるよう、外国人も住みやすいまち、国際的なまちであるというアプローチも大切であると思いますので、そうした施策をぜひ実施してください。

回答(市長)

蕨市では、「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンに多文化共生を掲げ、誰もが住みやすいまちづくりに取り組んでいます。具体的には、外国語表記のごみの出し方マニュアルや町会加入促進のご案内の配布をはじめ、教育センターにおいて、言葉が分からぬ外国の子どもたちへの日本語習得の支援、更に、防災面では、意思疎通を図る指さし会話セットを避難所に配備しています。また、交流の面では、在住外国人との交流を深める「みんなの広場」や、蕨市の姉妹都市や友好都市の青少年たちと交流を深める国際青少年キャンプ事業なども開催しており、引き続き、さまざまな取り組みを通じて、外国人の方にとっても住みよいまちづくりを進めていきたいと思っています。

質問(男性)

休日にまちの中で困っている様子の高齢者の方を見かけ、自宅まで連れて行ってあげた経験があります。その方は、独り暮らしで認知症の傾向があると見受けられましたので、一人にさせるのはとても心配でした。高齢化社会を迎え、今後、その方のように突発的な問題が多くてくると思いますが、そうした時の対応について教えてください。

回答(市長)

蕨市では、年に一度、民生委員さんに依頼し、高齢者調査を実施しています。その中で、75歳以上の独り暮らしの高齢者を把握しており、緊急時連絡先も確認しています。また、市や地域包括支援センターでは、高齢者の虐待が生じた場合、施設への緊急避難を行っているほか、24時間在宅福祉サービス事業では、ホームヘルパーが安否確認や緊急通報などの支援を行うなど、こうした高齢者の皆さんを見守る取り組みを進めています。今回の方は、認知症が見受けられるとのことですが、認知症対策は、超高齢社会の大きな課題となっています。蕨市では、第一、第二地域包括支援センターに認知症地域支援推進員の配置や、地域で支え合う体制づくりに向けた認知症サポーター養成講座の開催、認知症の方のケアをする家族等の交流の場である認知症カフェの整備、そして、昨年度は、市内5か所目となる認知症対応型グループホームの整備などに取り組んできました。今年度は更に、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、自立支援のサポートを行う、認知症初期集中支援チームを設置するなど、こうした多面的な取り組みを通じて今後も認知症対策を進めています。